

タウンミーティングの結果について（概要）

「テーマ：市民とともに考える“子どもの未来をひらく教育”」

1. 開催概要

日時：平成20年10月21日（火） 18：30～20：30

場所：北九州国際会議場メインホール

2. 参加人数

約450名

3. 進行概要

1. 開会 18：30

2. 基調講演（報告） 18：30～19：00

市長 （15分）

・10年先を見すえたまちづくり

新しい基本構想

教育日本一を目指して

恒吉氏（子どもの未来をひらく教育改革会議：座長）（15分）

・子どもの未来をひらく教育改革会議

委員紹介

6つの視点ごとの議論（現状 議論の状況 目指すべき方向性）

今後の議論の予定

3. パネルディスカッション 19：00～20：05

テーマ

「学校・家庭・地域の連携について」

コーディネーター	井上 豊久	福岡教育大学教育学部教授
パネリスト	恒吉 紀寿	北九州市立大学文学部准教授
〃	前川 公一	北九州市立小学校校長会会長
〃	安永 扶由美	北九州市PTA協議会副会長
〃	児玉 弥生	北九州市立大学文学部准教授
〃	野畑 昭彦	北九州商工会議所副会頭
〃	北橋 健治	北九州市長

4. 会場との意見交換（質疑応答） 25分 20：05～20：30

タウンミーティングにおける意見交換（概要）

質疑時間：20:05～20:30

質疑人数：5人

	市民意見（要約）	市長回答（要約）
1	<p>中学校給食については、小学校でもおいしいという意見が出ていることも踏まえ、そのノウハウを生かす形で推進してほしい。</p>	<p>貴重な提案であり、しっかり受け止めた。これまで2回予算編成を行い、トイレの改善、スクールカウンセラーやスクールヘルパーを増やすことは力いっぱい行っている。一方で教室暖房や少人数学級、中学校給食については、慎重に議論している。</p> <p>スクールヘルパーなどは、学校関係者の理解や支援が必要となるが、ぜひ、進めていきたい。</p> <p>中学校給食については、食育という立場から冷静に議論していただいている。健康な食生活を送るためにも学校も一緒に協力してほしいという趣旨であり、教育委員会で議論されている。市長としては、方向性が決まったときに「お金がないから」などの泣き言は言うてはいけなないと考えている。</p>
	<p>道徳教育について、子どもへの教育と地域における情報交換の場（イベント）などを実施してほしい。</p>	
	<p>スクールヘルパーで読み聞かせなども行っているが、子どもに直接関わるもので楽しい。校長も忙しいと思うが、仕掛けをつくってほしい。</p>	
	<p>不登校は、社会全体で取り組まなければならない。教員にも迷いがある。スクールソーシャルワーカーが導入されたが、教員も大変であり、一般の教員まで教育するような仕組みづくりをしてほしい。</p>	
2	<p>正規の教員を増やしてほしい。県費であり市単独では難しいが、人が財産であるということで国・県レベルにも働きかけてほしい。</p>	<p>財源の問題もあるが、最も重要な検討課題と認識している。国などにも機会あるごとに働きかけは行っている。市としても単費でマンパワーをどこまで増やせるのか、いつも考えており、今後ともがんばりたい。</p>
3	<p>発達障害の子どもなどへの教育を充実してほしい。具体的には、自分が住んでいる戸畑区に2、3年後には特別支援教室を設置してほしい。</p>	<p>特別支援教育については、保護者の方々からの切々とした訴えは聞いており、議会や教育委員会でも議論されている。できる限り保育園、幼稚園、学校とある中で行政がどこまで対応できるか真剣に考えていきたい。</p>

	市民意見（要約）	市長回答（要約）
4	大学の先生から、遊びが大切と説明があったが、その考え方について聞きたい。学力との関係や、遊びをどのように捉えているのか教えてほしい	遊びに触れる機会が減少傾向にあるような中、スクールバスからの教えや、ボート、子ども会などの良い活動もあり、広めあうことも大事。子どもたちはやさしい心を持ち、スポーツなどで頑張っている。教師自ら褒めてあげることによって自信と誇りにつながり、引いては学力にもつながるのではないかと。
5	教職員は、夜遅くまで生徒指導や不登校の生徒訪問などでがんばっている。私たちも協力しないといけないが、ぜひ、教員の数を増やしてほしい。 （要望）	< 要望事項 >
	中学校給食については、何パターンか方式があるが、親はどのような中身になるか自ら選択はできない。給食が子どもたちにとって良いものであってほしい。（早い時期の決断というのは）私たち（PTA）の意見も聞いて始めていただきたい。 （要望）	

タウンミーティングのアンケート結果について（概要）

1. アンケート総数

191枚（回収率 約42%）

2. 主な意見

（1）これからの子どもたちの教育にとって、特に大切だと思われること

- ・少人数学級に取り組むべき。
- ・正規の職員数（教員数）を増やすべき。
- ・先生や子どもたちにもう少しゆとりがあればいい。
- ・教員の資質向上に取り組むべき。
- ・家庭教育が重要。子どもたちの教育をする前に親の再教育が先ではないか。親の意識改革が必要である。子どもの教育を学校任せにしている親が多い。
- ・家庭が基本ではあるが、家庭でのコミュニケーションが取れていない現実を考えるとワークライフバランスは優先して考えるべき。
- ・心の教育（道徳教育）が必要。
- ・特別支援教育を充実することが必要。
- ・生涯にわたる人格形成の基盤である幼児教育の充実が必要（幼稚園、保育所など）
など

（2）教育における学校・家庭・地域の連携についての考え

- ・市民全体で少なくとも一緒にやってみよう、何かできないかとそれぞれが思い発信することが第一歩だと思う。
- ・まずは家庭が責任を果たすことが重要であり、学校や地域は一步さがった立場で支援すべきと考える。家庭、学校、地域のそれぞれの役割を明確にすることが重要。
- ・地域を愛する心を育てることが重要（愛郷心）
- ・異年齢交流を行い、年長者の知恵、技。心に触れる営みの中で生きる力、心の営みを志向させたい。
- ・子ども会などの地域の力を育てていくことが必要。

など

（3）その他（自由意見）

- ・海外の教育についての話があったが、複数の教員、小学校における教科専任制を日本の学校にも導入する必要があると感じている。
- ・世界にばかり目を向けるのではなく、日本人のいいところを伸ばしていくのも大切ではないか。北九州の教育を日本一にしてほしい。
- ・市長の熱意が伝わった。
- ・中学校給食は、食育の推進の観点からも慎重に進めていくべき。
- ・給食は、小学校でも実施しており、配膳や手伝うことを学ぶことができる。
- ・もう少し会場での意見交換の時間を増やすべき

など